



インタビュー

アフリカのコンゴ民主共和国出身で、市内の中学校でALTとして働いているチロンボ・ンゴイ・ジュニアさんにお話を伺いました。チロンボさんは、ALTとしての仕事をしている他、小山市で毎週行われている市民向けのフランス語クラスでも教えるのを楽しんでいます。

1960年にベルギーから独立したコンゴ民主共和国（旧国名ザイール）は、アフリカ大陸の中央部にあるアフリカ大陸で3番目に大きな国で、日本の8倍ほどあり、人口は約7000万人です。人々の多くは首都のキンサシャを中心に都市部に多く住んでいます。感染症などによる0歳から5歳までの乳幼児の死亡率が高い国の一つで、平均寿命は日本に比べるとかなり低いようです。言語はフランス語と現地語が使われています。

電子機器などに用いられるコバルトなどの希少金属やコルタン（コロンバイトタンタライト）などの希少鉱石が多く産出される資源豊かな国ですが、富は大企業が独占し、国民の生活は貧しく、学校は子どもの数の半分しか整備されてなく、就学率も低いそうです。

チロンボさんは、ヨーロッパとアメリカで大学時代を過ごされました。日本に住んで15年以上で、日本人の奥さんと家事、育児などを二人で分担しているとのことでした。

コンゴと比べると、日本の大人は忙しく余裕がなく、子どもも忙しいと感じるそうです。コンゴでは家族や親せきはよく集まり、子どもは地域の人々みんなで大切に育てるという環境だったそうです。日本は安全で、美しい国で、日本人は親しくなるのに時間がかかるけれど、友達になるととても信頼できると思うそうです。ただ、日本人は、日本人であることに誇りをもって、もっと楽しんで欲しいと感じるそうです。

様々な話を聞くことができ、有意義なひと時でした。大変ありがとうございました。



全国会議

日本全国から人々が集い、「男女共同参画社会づくりに向けての全国会議」が東京国際フォーラムのホールで開催されました。男女共同参画担当加藤大臣は、M字カーブが改善方向にあることと管理職を目指す女性が増えてきたことを話しました。

青山学院大学野球部の原監督は、スポーツ界では昔、「現場指導は男、女は家」の考えがあったが、監督自身は、「妻は自分と同じ目線になった同志」と捉えているということです。スポーツにおいてもチャンスを与えられて、古き悪しき伝統を変えて男女の枠を超えて活躍することが重要だと話されました。

「誰もが活躍できる社会を目指して」と題した村木厚子前更生労働事務次官の話は日本における問題点とこれから進むべき方向をわかりやすく示しました。

日本にとって女性の活躍は欠かせないものであり、「子育てしながらでも働き続けられる職場環境」「勤務時間が柔軟であること」などを挙げる人が多く、潜在パワーや高齢者パワーを活かすことがとても大切であり、うまくいくにはトップの意識が大切などの話がありました。「日本はよくなっているが、他の国はもっと速くよくなっている」という話が印象的でした。